

7/31

将来を見据えて医療現場を体験

～高校生の一看護体験～

▶入浴できない患者さんの手や足を洗う手洗いを協力して行いました。



市民病院で高校生の一日看護体験は行われました。荒尾・玉名・北陵・鹿本の4つの高校から14人が参加し、3班に分かれて看護を体験しました。参加した高校生の多くが普通科に在籍しており、初めてのシーツ交換や洗髪、血圧測定などに戸惑いながらも一生懸命取り組んでいました。看護体験を終えた生徒は「実際に患者さんに触れるときは緊張しました。患者さんに丁寧に接して看護する医療スタッフに感心しました」と語りました。

8/4

若い力がいきいき躍動！

～第7回ヤングステージ in あらお～

▶優雅なフラダンスで会場に花を添えてくれました。



毎年7月から8月にかけて行われる社会を明るくする運動の一つとして、ヤングステージ in あらおは文化センターで開催されました。

高校の部活動や自主グループなどから、30歳以下の若者12組が出演しました。出演者は書道、歌、ダンス、太鼓、箏、少林寺拳法などを披露し、日頃の取り組みの成果を披露しました。また、有明高校3年生の坂崎光陽さんと寺岡志乃実さんが司会を務め、軽快なトークで会場をさらに盛り上げていました。

8/25

きれいな水の循環を楽しく学ぶ

～上・下水道展～

▶ありあけ浄水場で行われている膜ろ過の実演会も行われました。



県下水環境課と共催して、上下水道展をあらおシティモールで開催しました。きれいな水と自然を守っていくために、パネル展示や水処理などのコーナーで上下水道の役割を紹介しました。汚泥でつくられた堆肥と花苗の配布、ありあけ浄水場の水道水試飲など、買い物途中の人にも気軽に参加して楽しんでいました。

参加者は「毎日使う水のこと分かりやすく学ぶことができました。いつもおいしい水をありがとうございます」と感想を寄せました。

8/30

「しあわせ 優都 あらお」を目指して

～有明優都戦略推進会議～

▶市民団体・企業・行政の代表が集まり、施策について協議しました。



市のマスタープランである第5次総合計画の進捗状況などを協議する有明優都戦略会議を文化センターで開催しました。

「しあわせ 優都 あらお」を実現するため、健康づくり・子育て支援・産業振興・定住促進の4グループに分かれ、市内外の70団体が意見交換を行いました。また、福岡ソフトバンクホークスファーム新球場誘致を行うことを全会一致で決定しました。今後も官民協働でまちづくりを進めていきます。

8/5

30年以上にわたる献血活動に感謝

～日本赤十字社社長感謝状伝達式～

▶前畑市長から感謝状を受け取る有働雄一郎理事兼事務局長（右）



医療法人 有働会 有働病院が日本赤十字社社長感謝状を授与し、市役所で伝達式が行われました。有働病院は献血活動に20年以上貢献したことが評価され、平成19年に厚生労働大臣から感謝状を贈呈されています。その後も10年以上にわたり計30年以上継続して献血活動に貢献したことが認められ、今回感謝状が贈呈されました。

有働理事兼事務局長は「医療機関として当然のことをしているだけです嬉しいですよ」と話しました。

8/9

伝統ある再興の祭り

～府本小代まつり（帷子市）～

▶紙ヒコキ飛ばし大会を楽しむ子どもたち



府本公民館横の広場で府本小代まつりは開催されました。府本小代まつり実行委員会が主催するこの祭りは、府本が江戸時代に参勤交代の宿場町として栄えていたころから盛んになり、下着などを売る帷子市の再興の祭りとして行われています。祭りでは小代焼窯元の展示販売、バザー、太鼓演奏、総踊りなどが行われ、にぎわいました。また、府本公民館では地元出身の仏教詩人「坂村真民」展も開催され、多くの地域の人が訪れていました。

9/1

17年間ありがとう！

～ウルトラマンランド閉園～

▶閉園セレモニーでは「ありがとう」の声を訪れた人から次々に上がっていました。



平成8年の開園以来、たくさんの人に愛されてきたウルトラマンランドが閉園しました。最終日となったこの日、ウルトラ戦士の勇姿を一目見ようと家族連れなど多くの人が訪れ、ウルトラ戦士との別れを惜しみました。閉園セレモニーでは、隣接するホテルの壁にウルトラマンの映像が映し出され、「ランドがなくなっても私たちの絆は失われない」とのウルトラマンからのメッセージが伝えられると、やむことのない温かな拍手が巻き起こっていました。

9/5

荒尾が鷹色に染まる！

～ユニフォーム着用で業務開始～

▶青・緑・赤など、色とりどりのユニフォームで市民の皆さんをお迎えします！



福岡ソフトバンクホークスファーム新球場誘致の機運を盛り上げようと、市役所で窓口業務を行う市民課や総合案内の職員30人ほどが、ホークスのユニフォームを着用して業務を開始しました。ホークスの新拠点の誘致を目指す荒尾市では、誘致への熱い思いを市民や球団にアピールしようと、市役所などにのぼり旗や看板の設置なども行っています。ユニフォームを着用しての業務は新本拠地球場の整備先が決まるまで続けていきます。